

信州大学長期ビジョン

-VISION2030-

平成 31 年 3 月 6 日

国立大学法人信州大学

(目 次)

はじめに

I 本学の理念と目標

II 予想される環境変化と現状

III 信州大学が目指す姿と、取り組むべき課題

1. 『信州を学び，未来を拓く』
2. 『知の創造をつむぐサイエンスプラットフォームの構築』
3. 『持続可能な進化型社会連携』
4. 『信州エクセレンスをグローバルに繋ぐハブへ』
5. 『あらゆる変化に柔軟に対応できる大学運営の推進』
6. 『大学病院として高度医療および先進医療を安全に提供する』

IV 参考資料

1. 長期ビジョン検討経緯
2. 長期ビジョン検討体制
3. 長期ビジョン各 WT メンバー表
4. 各 WT における検討資料

はじめに

世界はこれまでにない速度で変貌を続けており、未来社会に対しては期待と共に不安も渦巻いています。我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されている超スマート社会 Society5.0 では、様々な革新技術（第4次産業革命）により人類が経験したことがない環境で活動することになります。そのような社会で必要とされる人材を育成し、高等教育機関として目指すべき姿を展望するため、信州大学創立70周年を機に信州大学長期ビジョン“VISION2030”を作成しました。

一方、2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」には、国際社会全体の開発目標として、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）が掲げられています。信州大学も2030年に向けて取り組んでいくべき目標が多く含まれています。また、中央教育審議会が2018年11月にまとめた2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）では、必要とされる人材像と高等教育の目指すべき姿を示し、多様性と柔軟性のある教育研究体制の構築、教育の質の保証と情報公表の推進、18歳人口の減少を踏まえた高等教育機関の規模や地域配置の在り方が謳われています。この答申を考慮しながらも、SDGsで設定されている目標年や変化の速さも考え、2030年に向けたビジョンとしました。

長野県で唯一の国立大学法人として、地域の産業界や地方公共団体等とビジョンを共有しながら歩んでいけることを期待しています。

信州大学長

濱田 州博

I 本学の理念と目標

1. 理念

信州大学は、信州の豊かな自然、その歴史と文化、人々の営みを大切にします。

信州大学は、その知的資産と活動を通じて、自然環境の保全、人々の福祉向上、産業の育成と活性化に奉仕します。

信州大学は、世界の多様な文化・思想の交わる場所であり、それらを理解し受け入れ共に生きる若者を育てます。

信州大学は、自立した個性を大切にします。

信州大学で学び、研究する我々は、その成果を人々の幸福に役立て、人々を傷つけるためには使いません。

2. 目標

信州大学は、その存立の理念に基づき、教育・研究・地域貢献・国際交流において次の目標を掲げます。

(教育)

かけがえのない自然を愛し、人類文化・思想の多様性を受容し、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であり、自ら具体的な課題を見出しその解決に果敢に挑戦する精神と高度の専門知識・能力を備えた個性を育てます。

(研究)

人類の知のフロンティアを切り拓き、自然との共存のもとに人類社会の持続的発展を目指した独創的研究を推進し、その成果を地域と世界に発信し、若い才能を引きつける研究環境を築きます。

(地域貢献)

信州の自然環境の保全、歴史と文化・伝統の継承・発信、人々の教育・福祉の向上と産業発展の具体的課題に貢献するため、大学を人々に開放し関連各界との緊密な連携・協力を進めます。

(国際交流)

諸外国から学生・研究者を積極的に受け入れ、世界に開かれた大学とし、信州の国際交流の大きい推進力となります。

II 予想される環境変化と現状認識

AI や IoT といった第 4 次産業革命が生み出すデジタルテクノロジーの進化は、世界の在りようを根底から変えようとしています。SNS を介したグローバル化・ボーダーレス化の進展と、留まるところを知らない先鋭化の連鎖とが相まって、現代社会はまさに未来を見通せない時代を迎えています。1990 年代のインターネットの登場によってビジネスモデルに対して大きな変革が起きたように、AI の社会実装により BI（ビジネス・インテリジェンス）が飛躍的に進化することで、社会全体の流れが変わり、人の持つ価値観までも変化させてしまう時代が到来しようとしています。

一方で、我々が暮らす信州に目を向けると、交通のアクセシビリティ上の問題など、社会インフラやサービス面において中山間エリア特有の課題が多く存在しています。また、65 歳以上の高齢者人口がピークを迎えると推定される 2040 年には、信州では働き手が約 34 万人減少し、高齢者の割合が 40% 台になるなど、2040 年問題の影響に待たなしの状況です。

このような時代だからこそ、その状況を未来創造のためのチャンスと考え、市民・自治体・企業・大学各々の垣根を取り払い各自が持つ「知」を結集し、百年千年続く文化・文明が信州で創発するよう、価値創造のための仕組みを実現することが、信州大学の果たす役割です。

1. 予想される環境変化

- (1) Society5.0, 第 4 次産業革命の進行
- (2) 広い分野での SDGs を目指したプロジェクトの進展
- (3) 生産年齢人口減少、少子高齢化の加速
- (4) 社会全体におけるグローバル化と多様性を受け入れる社会システムへ
- (5) 人生 100 年時代
- (6) 広域交通ネットワークの充実
- (7) 高等教育を取り巻く変化
 - ・多様な価値観の集まるキャンパス
 - ・教育の質の保証と情報公表
 - ・文系・理系の区別にとらわれない、新しいリテラシーに対応した教育
 - ・初等・中等教育からの接続を意識した高等教育における「学び」の再構築
 - ・地方創生、地域を支える人材の育成
 - ・18 歳人口の減少を踏まえた大学の規模や地域配置
 - ・高等教育の新しい役割としてのリカレント教育の進展
 - ・大学施設の維持管理
- (8) グローバル化
- (9) 労働環境の変化
 - ・終身雇用制度の規制緩和

2. 本学の特色及び取り巻く現状

- (1) 地域に軸足を置いた総合大学
- (2) PLAN the N・E・X・T による積極的なガバナンス改革と戦略的マネジメント
- (3) ファイバー・カーボン・バイオなどの世界水準の研究
—2030年には我が国屈指の研究大学へ—
- (4) 地域活性化を担う大学
- (5) 長野県内に点在するキャンパス
- (6) 恵まれた自然環境等
- (7) 先進医療と国際的医療人の育成
- (8) 留学生受け入れと派遣の進展
- (9) 「教学マネジメント」の確立
- (10) 高大接続への取組

Ⅲ 信州大学が目指す姿と、取り組むべき課題

1.『信州を学び，未来を拓く』

（１）信州ならではの自然・文化・産業を活用した学びを実践します。

自然、文化、産業が融和した信州の魅力を活かした学びを提供します。自然を愛し、人類の文化・思想の多様性を受容し、自ら具体的な課題を見出しその解決に挑戦する精神と高度な専門知識・能力を備えた個性を育てます。

（２）先鋭的研究の成果をもとに、新しい時代を切り拓くための学びの場を構築します。

文系・理系 8 学部からなる総合大学として、時代の変化に左右されない、幅広く深い教養と真理への探究心を培う教育を深化させます。また、先鋭的な研究の成果をもとに、AI、IoT、超高齢化はもとより、急激に変化していく社会に対応し、新しい時代を切り拓くための能力を身につける学びの場を構築します。

（３）生涯にわたる学びに対応できる環境を整備します。

少人数クラスや個別の学修支援策など、学生が教員・職員と協働できる体制を整え、学生の主体的学びを支援します。また、ICT（情報通信技術）環境を最大限に活用して、社会人のセカンドキャリア・サードキャリアに対応するなど、生涯にわたる学びに対応できる環境を整えます。

（４）信州大学から地域、世界へとつながる学びを提供します。

大学内に留まらず、自治体や企業等との連携により「地域全体キャンパス」を実現し、新たな課題を見出し、解決するカリキュラムを提供します。さらに、海外の大学や研究機関との連携により、グローバル化に対応するための能力を身につけるカリキュラムを提供します。

2.『知の創造をつむぐサイエンスプラットフォームの構築』

（１）独創的な研究を活用することにより、信州の未来社会の価値を創造します。

信州の豊かな自然と共生した世界一の健康長寿を進めていくために、これまで培ってきたライフサイエンス、マテリアルサイエンス等の成果を社会実装することにより、信州地域でのイノベーションエコシステムを確立させます。また、ヒトがもつ創造力の飛躍によって生み出される SF（サイエンス・フィクション）や創造科学なども新規分野と捉え、信州大学と社会の知を融合した分野横断によるオープンイノベーション型の先鋭的な研究領域を形成し、未来社会に向け挑戦する新しい科学領域を創出します。

（２）トランスディシプリナリーの観点から魅力ある研究を推進し、優れた研究者を養成します。

研究者の自由な発想による創造的な研究をもとに、未来社会の価値を生み出すことを目的としたしなやかな研究組織を築き、研究者が生き生きと活躍し、日々斬新なアイデアが生まれる研究環境を整備することで、次世代の若手研究者を養成します。また、異分野間や大学間交流など多様な知の交流と、柔軟な発想から生まれる先鋭的な研究の新結合を進めることで、世界に通用する研究ブランドを確立します。

（３）デジタルテクノロジーによって拡張される未来社会に対応した研究を推進します。

第４次産業革命により日々アップデートされる情報科学技術分野（特に AI、ロボット、IoT）の革新的な技術を駆使することで、ヒトがもつ創造力を飛躍させ、先人たちの哲学や古典・伝統にも範を求めながら、ヒトのみがもつ価値観を大切にしたい未来社会を常に予測し、研究者の知的探究心や独創性に基づく基礎的研究や、よりよい社会をつくるためのイノベーション志向の応用的研究を進めます。

（４）価値創造のための研究開発を加速させ、地域共創社会の形成を目指します。

地域全体での産学官民が一体となった相互交流型のクロスアポイントメントにより、本格的な産学官民連携を進め、実務家教員による経営感覚あふれるニーズの把握や、トランスレーショナル・リサーチの推進によるスピード感あふれる研究開発成果の社会実装を進めます。また、学術研究成果のアウトリーチ活動を進めることで、最先端のサイエンスに触れる学びの場を作り、知的好奇心と創造性をはぐくむ地域の知的文化を作ります。

【用語説明】

トランスディシプリナリー：分野を超えた学問・研究。

トランスレーショナル・リサーチ：臨床応用・技術移転を前提とした研究。

3.『持続可能な進化型社会連携』

(1) クリエイティブ・コ・デザイン『Co×Creation（新たな価値創造）、Co×Production（知の共奏）、Co×Innovation（イノベーションの共創）』により、信州全域を未来創発の場にします。

長野県内に点在するキャンパスで培った実績を活かし、課題解決のための連携プラットフォームをデザインすることで、市民・自治体・企業・大学などセクターを越えた多様な主体が集まれる共創の場を作ります。また、キャンパスがないエリアを中心にサテライトキャンパスを設置し、ICT、ビッグデータを活用して地域の産業ニーズや潜在的な社会課題を把握し合うことにより、イノベティブな共奏関係を築き、問題解決にあたります。

(2) モノ・コト・ヒトづくりから、信州の価値を高めます。

幸福度という言葉に代表されるように精神的なコトの充足（体験・時間）が求められる社会が到来しています。このような社会変化を見据え、市民・社会の生活の場からイノベーションを創出する「信州リビング・ラボ」構想を進め、住みたい県でありつづけるためのモノ・コト・ヒトづくりを推進します。多様な人々と連携することで、UIJ ターンのきっかけをつくり、また信州が持つ価値再発見に努めます。

(3) 「創造力」だけではなく「実行力」のあるドゥタンク人材の育成を推進します。

多様な人材が意見をぶつけ合い成長できる機会を設け、地域課題に取り組む経験を積ませる「信州アカデミア構想」を推進します。学生には起業経験、社会人には個人をアップグレードするリカレント教育を行い、信州の地域的な課題に対応できる人材を積極的に育成します。それらの人材が、人的/物的交流を促進する次世代モビリティシステムや、知的交流を進めるコミュニケーションテクノロジーなどを活用しながら、地域の課題解決に取り組むことができる社会を実現します。

(4) 地域未来変革の駆動力となります。

VUCA の時代を乗り越えていくためには、社会全体で成長する「システム」を構築することが必要です。百年千年つづく文化/文明を創り出すことが社会的に重要と考え、社会変革のための新しい価値を創造します。また、それらを生み出すためのイノベーションが起これ続ける循環型社会形成を信州大学が牽引し、社会を構成する人々が活躍する地域づくりを行います。

【用語説明】

リビング・ラボ：市民・社会を中心に据えて、ものづくり・サービス・政策等を創り出す新しいイノベーション創出の考え方。

ドゥタンク：特定の問題解決に向けたアクションを起こしていく実践集団。

VUCA：Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(あいまいさ) という4つのキーワードの頭文字から取った言葉。

4.『信州エクセレンスをグローバルに繋ぐハブへ』

（１）海外の教育・研究機関との連携を強化し、海外拠点を中心とした学術交流を活発に展開します。

多様な国々の大学や研究機関等と戦略的な学術連携パートナーシップを展開し、学術交流活動が活発な協定校の拠点化を進め、拠点を中心とした特色ある教育研究プログラムを推進・強化し、教育・研究の質の向上とグローバル人材育成に貢献します。

（２）大学や地域が有する高度な技術・知見を集積し、イノベーションにより信州から世界への社会実装に繋がります。

より一層地域（行政、経済界、産業界、農業界等）と連携して課題解決に取り組み、地域と共に進める事業を海外にも展開します。この際、本学や地域が持つ技術や知見、人材、ネットワークなどを最大限に活用し、イノベーションにより新たな価値や強み、魅力を生み出し、本学と地域のコア・コンピタンスにします。

（３）本学の教育・研究、地域連携などの特徴や魅力を、グローバルに発信します。

グローバルに通用する広報活動を展開し、本学及び地域の取り組みや魅力に関する最新情報を効果的かつタイムリーに発信します。この際、「信州」という地の利・ブランドを最大限に活かし、グローバルなプレゼンス向上に努めます。

（４）海外からの研究者・留学生受け入れ、本学の研究者・学生の海外派遣、外国人人材の地域への就職支援を促進します。

海外拠点を活用したリクルート活動や入試・教育方法の改革により、優秀な留学生獲得に努めると共に、留学生が受験・学習しやすい体制の整備・充実を図ります。地域と連携して、海外の研究者・留学生が生活しやすい環境、外国人人材が地域に就職・定着しやすい支援体制を構築します。また、本学の研究者・学生の海外派遣を促進するための支援体制を一層強化します。

【用語説明】

コア・コンピタンス：他機関に真似できない核となる能力・技術。

5.『あらゆる変化に柔軟に対応できる大学運営の推進』

(1) 社会環境の変化に応じた柔軟な組織運営をします。

刻々と変化する人材需要に応じた教育研究組織の再編、高度職業人材の需要に応じた大学院規模の拡大を行います。また、先鋭的研究を支援するための学内共同施設や産学連携を促進するための体制の充実を図ります。さらに、それらを支える事務組織も合わせて充実させます。

(2) 教育・研究の充実のために、多様な財源を確保します。

効率的な組織構築と信州大学の強みを通して、科学研究費補助金等の競争的資金や、企業との共同研究等の民間資金の投資を獲得します。また、同窓会との連携強化、一般の方々からの寄附、新たな基金の創設などを通し、地域から財政的に応援していただく体制を整えます。これらの資金により、先端研究への投資による研究の充実、独自の奨学金制度の設置等による教育の充実を図ります。

(3) 個々の教職員が力を十分に発揮するための人事給与マネジメントシステム改革を推進します。

各教職員の得意分野を活かした業務内容の見直しを行い、個々の教職員の力を引き出します。働き方改革により職場の魅力を高め、優れた教職員を確保します。特に、女性教職員、外国人研究者、若手研究者の支援を充実させます。さらに、教員の教育・研究力を高めるために、適切な業績評価システムを構築します。

(4) 持続可能なキャンパス環境を整備します。

既存施設・設備を有効に活用するために、未来を見据えた「インフラ長寿命化計画」に基づく個別施設計画を策定し、中長期的な観点からマネジメントします。一方で、省エネ、バリアフリー、防災拠点、ICT 活用教育等の新規な需要に対しての投資を積極的に行います。また、広域交通ネットワークの充実（リニア、高速道路）を見据えたキャンパス整備を行います。

(5) 長野県内の自治体や企業との連携を強化します。

産業、医療、教育等、長野県内の自治体・企業等の多様なニーズに積極的に応える体制を整えます。産業面では、県内企業や研究機関との連携を深め、地域イノベーションの拠点となります。医療面では、医療人の偏在を解消し、適切な情報提供を通して地域住民の健康を守ります。教育面では、県内の人材需要に応えるために、学部・大学院教育の充実、生涯学習・社会人学習環境の充実を図ります。

6.『大学病院として高度医療および先進医療を安全に提供する』

(1) 地域の拠点病院として、高度医療および先進医療を提供します。

長野県内唯一の特定機能病院として、医療の最後の砦でしか行えない高度医療を提供します。また、先進医療を積極的に取り入れ、今まで行えなかった最新の医療を提供します。さらに、先進医療の開発促進に力をそそぎ、その成果を長野県から世界に発信します。

(2) 長野県内の医療人を育成する拠点として、生涯にわたり患者さんごとに適切な医療を提供できる医療人を育てます。

長野県内最大の医療教育機関として、生涯学び、分担された医療を適切に提供できる医療人を育てます。最新の医療情報を取り入れ、自らも患者さんから学ぶことで臨床研究を行い、医療安全を医療の中心に考えられる医療人を育てます。さらに、自ら推進した良い医療を国内外に広く発信できる人材を育てます。

(3) 地域医療において、入院から在宅医療まで切れ目のない医療の実現を目指します。

ひとりの患者さんの医療情報を複数の医療機関で共有でき、一つの病院だけでなく地域全体で診療するシステムを構築します。病院、診療所、介護施設などが、それぞれ得意とする治療を行うことにより、患者さんの生活の質をより向上させます。

(4) 人生 100 年時代を迎え、健康寿命を延ばす情報を提供します。

元気で長生きするために、食生活の改善、適切な運動方法、よい健康診断の受け方、正しい医療機関の受診方法など、健康増進に役立つ情報を県民、市民の皆様にお知らせします。県内各地で行われている医療に関する調査研究も継続し、長野県に合った健康法を追求します。